

社会的なものの見方・考え方を広げる指導の工夫
 ~ これからの自動車づくりについて考える活動を取り入れて ~
 こんな風にしたいなあ・・・



でも、実際は・・・

1. 指導の実態

- ・テストがあるから、教科書の内容をまねて教えている。
- ・教材に対する想いがない・・・。
- ・教材研究が足りない・・・。

〔児童の実態〕
 ・グラフ資料の表題・出展・年度、縦軸・横軸の項目および単位、変化を読み取れるようになってきた。

・写真資料ではいつ頃、どこで、何をしているところなのか読み取る練習をしてきた。

・課題に対する自分の考えをもつこともできるようになってきた。

・一つの社会的事象に対して、他の面から見た資料を提示することがなかったため、比較したり、関連させたりして多面的に見て考える力が足りない。

こんなことが必要かなあ・・・

2. 課題解決に向けて

- ①指導者自身が自分なりの教材観をもつ
- ・様々な関連図書を読む。
 - ・自動車工場の現場に取材に行く。

- ②単元を構想する
- ・自分なりの教材観をもとに、単元計画を立てる。

どう料理しようかなあ・・・

- ③資料の精選、討論になる発問の工夫
- ・複数の資料を用意し、知識を習得させる。
 - ・習得した知識を活用できる発問を用意する。



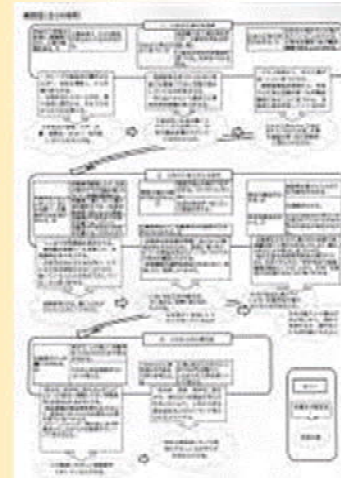
よし、やってみよう！

3. 実践

- ①教材研究
- ・文献研究
 - ・自動車関連工場や販売店へ取材。(市光工業、日産)



- ②単元構想
- 他の教科書会社(4社)の指導計画は自動車工場から始まっていたが、日本の工業の全体を概観してから、工業生産額第1位の自動車工業へとつながっていった方が自然な流れと考えた。



- ③提示資料・発問の選択
- 提示資料
- ・クリーンエネルギー車のよい面の資料 (CO₂低排出・無排出、静音)
 - ・課題が分かる資料 (価格が高い、一回の充電での走行距離が短い、水素の安全面、バッテリーの問題等)

発問
 「これから広まっていくかどうか」で討論。

4. 成果

- ①指導者の教材研究次第で、児童は変わっていくものであることに改めて気付いた。
- ②意見が分かれる課題を用意することで、児童は意欲的に考え、発言することができた。ただ単に自分の考えを発表するだけでなく、友達の実態に対する意見も言えるようになったので、考えが深まったり広がったりしていた。

課題

多面的に考えられるように資料を用意したが、片方の資料の印象が強かったために、考え方が偏ってしまうということも改めて自覚した。均等になるように用意したつもりであったが、児童にとっては価格という問題は非常に身近であったためである。資料を用意するときにはできるだけ公平になるようにしなければならぬ。児童の実態をより深く把握する必要があった。

「クリーンエネルギー車はこれから広まっていくか」

(広まらない)
 ・環境にやさしいけど、値段が高いから、なかなか買えない。
 ・電気自動車は1回の充電で走行できる距離がまだまだ短い。
 ・水素スタンドが身近にない。等々

(広まっていく)
 ・今、環境の問題や石油の発見量のこともあるから、地球にやさしい車に乗り換える人が多くなるから。
 ・ピークオイルになるかもしれないから、電気や水素を燃料にする自動車の開発が進むはずだ。
 ・日本人の技術力なら、価格も安くできるようになるはずだ。等々